

くすりのシリコンバレーTOYAMA 創造コンソーシアム

医薬品研究セミナー

EBVの免疫病態発現機構解明と バイオロジクス開発への応用

安居 輝人 博士

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
感染症制御プロジェクト
ワクチン・アジュバント研究センター
免疫バイオロジクスプロジェクト
プロジェクトリーダー



Epstein-Barrウイルス（EBV）は、B細胞、上皮感染指向性を有するリンパ腫、上皮がんを誘導するがんウイルスである。一方、獲得免疫活性化による自己免疫疾患に関与することが示唆されており、いわゆる「免疫攪乱ウイルス」として知られている。我々は、これまで様々なEBV由来潜伏感染遺伝子産物について、B細胞分化・増殖異常を検討してきた。今回は、EBVを中心に免疫病態発現機構解明に関する分子から個体までの研究を紹介する。さらに、これら研究の応用として、EBV、あるいはB細胞分化・増殖シグナルの理解をもとに、ヒト由来抗体シーズ探索法を開発し、種々の感染症治療抗体シーズのラインナップ取得に成功した。これらの知見が、どのように今後のバイオロジクス開発につながるかを併せて議論したい。

日時： 2019年7月11日（木） 13:30 – 15:00

場所： 富山県立大学 生物工学研究センター1階 K-115室

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

富山県立大学工学部 医薬品工学科 担当：長井 良憲

TEL: 0766-56-7500（内線1911）

E-mail: ynagai@pu-toyama.ac.jp